

学力向上に向けた取組事例

1 授業改善の工夫

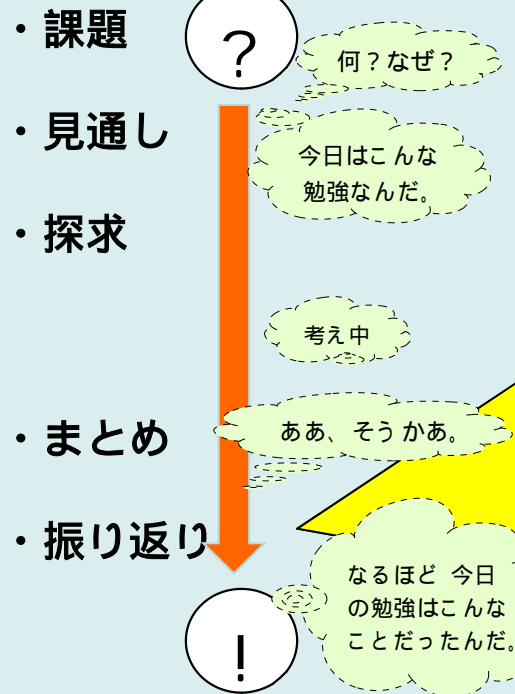
宇城市立松橋小学校
菊池市立隈府小学校

荒尾市立荒尾第一小学校
山江村立山田小学校

2 学力向上に向けた特色ある取組

ポイント 「いざなう言葉かけ」で児童の「納得」を促進（国語科）

児童の思考の流れ



「いざなう言葉かけ」

- ・この時間で一番「そうそう！」と思ったことは何でしょう。
- ・「わかった！」と思ったことは、どんなことでしょう。
- ・「今日の発見」を書きましょう。
- ・だれのどんな発言で、よくわかったのかまとめましょう。
- ・今日の学習で、明日につながると思ったところはどこでしょう。

実践例

6年「風切るつばさ」

【本時の課題】

人物関係図を作成するために意見を交流し，考えを広げよう。

【まとめ・振り返り】

- ・私は「クルルは心の奥で、ずっとカララを信じていたんじゃないのか」と思っていたけれど、みんなの意見を聞いて「少しも信じられないくらいつらい思いだったんだ」という私が見つけれなかった思いも発見することができました。

- ・長年取り組んでいる国語科の研究の中で、特に「まとめ・振り返り」に焦点をあてた内容です。教師の「いざなう言葉かけ」により、児童が「その時間でわかるようになったこと」「納得したこと」を言葉にして表現できるようにする学習を通して、学習内容の定着を図っています。

ポイント 授業のはじめに「前時の学び」を語る児童の育成（算数科）

児童の「振り返り」

わかったこと（すっきり）、わからないこと（もやもや）を書く。

前時

教師の「まとめ」

本時のめあてとの整合性を見る。
児童の考えのよさを価値付ける。

「前時の学び」を語る

本時のめあてへつなぐ。

本時

【事例：6年「比とその利用」】

児童：今日は比を簡単にする方法を考えました。小数は、両方の数を10倍にしました。分数は通分しました。比の値を求める方法もあります。

教師：分母はそのままでもいいのですか。

児童：分子がそのまま比になります。

教師：分母をそろえるということは、1つ分の大きさをそろえることなのです。線分図ならば、区切り方をそろえることと同じですね。

前時

本時は決められた比で全体を分ける学習

児童：昨日は、比を簡単にする方法を考えました。分数の比は分母をそろえました。これは、一つ分の大きさをそろえることでした。線分図をかくときにその考え方が生かせそうです。

教師：今日の学習では、線分図を使う場面があります。前回の考え方はどこに生かされるか意識しながら学習を進めましょう。

本時

- 算数の学習で大切な「既習とのつながり」を児童に意識させることが十分でないという反省からこの実践は生まれました。教師が「まとめ」の中で児童の「振り返り」を価値付けることで、児童はその日に学んだことを確実に理解し、次時のはじめに「前時の学び」を語るようになっていきます。

1 授業改善の工夫

ポイント 個人思考の場、グループ学習の場の充実による、質の高い学習

個人思考の充実

課題について、自らの考えとその根拠を確実に持たせる場の設定

グループ学習の充実

すべての児童に説明力を身に付けさせ、考えを関連付け、聞く力を育てる場の設定

山田小ミニミニ学級会等によるグループ学習力

質の高い全体学習（学習の振り返り）

真剣に考える児童の姿

全国学力・学習状況調査B問題の向上



個人思考 自らの考えと根拠



グループ学習 考えの関連付け



個人の学習の振り返り



ICT活用による全体学習

- ・ 根拠を明確にする個人思考の充実、山田小ミニミニ学級会等の実践による充実したグループ学習の位置付けにより、児童の真剣に考える姿が育まれ、質の高い全体（一斉）学習につながっています。このような質の高い協働学習により、全国学力・学習状況調査Bにおいても大きな成果が見られます。

次のページに続きます。

2 補充学習や日々の取組の工夫

阿蘇市立波野小学校・波野中学校

氷川町立竜北中学校

天草市立本渡中学校

ポイント 学力向上に向けた小中連携SUT (Step Up Time) の取組

「SUT」とは

1 実施方法

- ・日時: 毎週火曜日の放課後
- ・対象: 小学校4年生～中学校3年生
- ・形態: 小中学生混合グループ(3～4人)

2 活動内容

共同解決の時間

算数を中心に、県学力調査の過去問題や全国学力・学習状況調査単元別過去問題に取り組む。

小学生が分からない問題を中学生が教え、説明する時間。

個人学習の時間

- ・小学生・・・担任が用意したプリント
- ・中学生・・・教科書ライブラリの問題
準備された問題に個人で取り組む時間。

共同解決の時間の様子



【小学生の感想】

- ・問題が解けてうれしかった。
- ・中学生から をつけてもらってうれしかった。

【中学生の感想】

- ・もっとわかりやすく説明できるようになりたい。
学力の向上、コミュニケーション能力の向上に効果

・学力向上に向けた小中連携しSUTの取組により、小学生にとって学習内容の理解がより深まるとともに、学習意欲も高まっています。中学生にとっても小学生相手に分かりやすい表現となるよう、学習内容を整理して説明する力が求められます。SUTは小・中学生双方に有効な学習です。

ポイント 「落ち着いた生活」と「学習習慣」の環境づくり

毎日の取組

- 1 朝読書(8:15～8:25)
 - ・各自が本を用意し、自分の席で黙読。
- 2 チャレンジタイム(8:25～8:40)
 - ・学年統一した計画による、百マス計算、視写、プリント学習等、基礎的・基本的学習内容を徹底。
学習クラスマッチ(学期に1回実施)

竜北中ノート

きまりの確認(下記を毎日自己評価し提出)
5点固定:起床時刻,就寝時刻,学習開始時刻
登校時刻,下校時刻
生活心得,部活規定
学校・家庭が一体となった推進

The image shows three examples of student notebooks. The top notebook is a daily schedule with columns for '午前' (morning) and '午後' (afternoon), and rows for '時' (hour), '月' (month), '日' (day), and '(木)' (Thursday). It includes fields for '朝食' (breakfast), '起床' (wake up), '登校' (school start), '帰宅' (home), and '学習' (study). A box labeled '5点固定' (5-point fixed) explains that breakfast is recorded with O, Δ, or X, and other activities are recorded with their times. The middle notebook is similar but includes a box for '教科の連絡' (subject communication) and '今日の反省' (today's reflection). The bottom notebook shows a summary of the week with fields for '起床' (wake up), '学習' (study), and '就寝' (sleep) times for each day, and a yellow box labeled '竜北中ノート(一部抜粋)' (Ryūhoku Junior High School Notebook (partial excerpt)).

・毎日の「朝読書」と「チャレンジタイム」で徹底した学習の基盤づくりに努めています。また、日常の落ち着いた生活習慣や確実な学習習慣の定着に向け、「竜北中ノート」の活用や、家庭と連携した取組も行い、地域とともにある学校づくりを推進しています。

2 補充学習や日々の取組の工夫

ポイント 授業のまとめの板書で、家庭学習のポイントを確認

板書整理の工夫

「学習課題」
「まとめ」
「自学のポイント」
をプレートで提示

自学のポイント

自分が考えた流れを、
手帳に書いてみる!!

「家庭学習」への効果

その日の学習内容を、授業のねらいにそって、ポイントを押さえながら的確に復習でき、基礎学力の向上につながる。

学習課題 二次方程式を立て、問題を解決しよう!!

《解決のポイント》 - まとめ

- ① 何を文字(x)で表すか?
- ② 方程式を立てる。
- ③ 方程式も解く
- ④ 求めた解が条件にあっているか、チェック!!

長方形の長さなので
 $x > 0$ だから $x = 5$ になる

$x(x+3) = 40$
 $x^2 + 3x - 40 = 0$

3cm長い長方形
40 cm²
長さは?
x cm
40 cm²
x+3 cm

生徒は、下校前に行う「自学タイム」でその日の授業を振り返り、家庭学習の計画を立てるとともに復習を始めます。授業の板書を工夫することで家庭学習ではポイントをふまえた復習ができ、授業と家庭学習がリンクした学習習慣の確立につながっています。

3 校内研修や教育委員会全体での取組の工夫

山鹿市立大道小学校

御船町立小坂小学校

津奈木町立津奈木中学校

美里町教育委員会

ポイント 「ステップアップ授業研究」で、毎時の授業の改善を図る。

「ステップアップ授業研究」とは

教師それぞれの強みや学びを生かした全教科・領域の授業研究において、具体化・焦点化した共通実践事項や手立て等を積み上げ、実践を通して、授業力・指導力アップを図る。

授業における共通実践事項

1 学習過程の確立

- ・「めあて」「学び合い」「まとめ」

2 学習規律の徹底

- ・「ベーシック4項目(座り方・挙手・返事・聞き方)」の徹底

3 板書の工夫

- ・流れや思考の可視化 思考や基礎・基本の定着に役立つ板書

エビ・サデ・ザイの視点に基づいた授業の構築

合理的配慮の充実



・授業のゴールで目指す具体的な姿を児童と共有し、導入のカード学習、終末の適用問題等、すべての教科・領域において基礎・基本の定着を重視した具体的な手立てと取組を推進しています。

ポイント 公開授業で切磋琢磨 見せ合っこ授業による授業力の向上

見せ合っこ授業

千本ノック形式の公開授業。
若手・ベテランが等しく、
授業力を磨き合います。

そのために

指導案を研究の視点に沿って精選した
授業設計カードを活用

授業について日常的に語り合う職
員室の雰囲気
本音で語り合う授業研究会

公開授業の設計カード

6年 教科・領域(算数科)
「拡大図と縮図」(東京書籍) 1/8時
平成27年9月16日(水) 5校時
授業者 村田裕紀

目指す子どもの姿
図形の構成要素に着目し、拡大図や縮図の意味について、「対応する辺の長さの比が等しく、対応する角の大きさがそれぞれ等しい。」と指摘することができる。
【知識・理解】

児童の実態
合同な図形に関しては、ほとんどの児童がその意味を理解していた。分度器の使い方が理解できていない児童がいた。指示が通らず、集中力が持続しない児童が数名いる。

そのために授業者は・・・
○図形の構成要素(対応する、角度、長さ等)について想起するために、導入段階で既習事項の合同を振り返る。
○図形の関係性について、方眼紙シートで考えることで、図形の構成要素に着目した説明ができるようにする。

学習活動

- 合同の学習や図形の構成要素について想起し、本時の学習課題を捉える。
- 示された拡大図と縮図の関係について、2つの図形から構成要素をもとに性質を調べて話し合う。【言語活動】
- 拡大図と縮図の意味についての関係を探る。
- 適応問題に取り組み。

発問や指示

2つの図形(合同)はどんな関係といえますか。

形が同じで、大きさが違うと思う図形を選びましょう。理由を発表しましょう。

<学習課題>
「形が同じで大きさが違う」という図形の関係について調べてみましょう。(セルフベアオール)

<主発問>
「形が同じで大きさが違う」図形同士にはどのような関係があるといえますか。(ベアオール)

拡大図と縮図の関係のカードを持った友達と集まって理由を発表しよう。

UDの手立て

【スパイラル化】
○合同の学習を振り返り本時の学習につなげる。
【動作化】
○動作化(立つ・産る・移動する・書く・貼る)
○学習形態の工夫(セルフベア・オール)。

【視覚化】
○実物投影機を活用する。
○対応する辺や角を色分けする。

【焦点化】
○図形の関係性について、方眼紙シートで考えさせることで、図形の構成要素に着目した説明や指摘ができるようにする。

【共有化】
○適応問題でまとめをもとにベアで確認し合う場を設け、習得の共有化を図る。

個別の配慮の設計カード

みんなが楽しく「わかる・できる」ための手立てをめざして

集団 ← **配慮を要する児童の実態** → **個別**

【グループ1】
レディネスアセスメント
▲分度器等の操作活動が苦手。
▲図形(算数)の理解力がやや低い。
【対象児童】A、B、C

【グループ2】
レディネスアセスメント
▲指示が通らないときがある。
▲合同な図形の習得が不十分。
▲分度器の使い方が習得できていない。
【対象児童】D

個別の配慮

個別対応した配慮

- ものさしや分度器を操作し、合同を構成する長さや角度という要素に気づかせる。(A、B、C)
ベアトークで既習事項を想起できるようにする。(A、B、C)
- 図形の構成である長さや角度、また「対応する～」という概念について机間巡視で着目させる。(A、B、C)
意欲の続かない児童には、できた分に対する評価を赤ペンでして、スモールステップの積重ねによる意欲の継続を図る。(A、C)
- ベアトークで友達のを考えを付け足しながら自分の考えを持たせるようにする。(A、B)
- 迷っている児童には今日のまとめを指示し助言することで適応問題に取り組ませる。(A、B、C)

事前・事後の指導

- 事前：既習事項である「合同」の学習に関する復習をしておく。
- 事前：定規の使い方や分度器の使い方について個別に指導をしておく。
- 事前：ベアトークのやり方を個別指導する。
- 事後：宿題プリントにヒントを朱書きし取り組ませるようにする。

作業の指示が通っているか机間巡視する。(D)

ベアトークの場から自分の考えを持たせるようにする。(C、D)

授業設計カード

・学校の共通実践事項をもとにした授業設計カード(小坂方式)を活用することにより、全職員による毎月の公開授業が可能になりました。そのことにより、本校の研究の方針に焦点をしばって本音で授業を語り合うことができるようになり、授業力の向上につながっています。

ポイント 課題を重点化し、組織の活性化を図る校内研修

特定課題改善シート作成

「肥後っ子輝きナビ」等を活用した小問分析から見えてきた特に課題とされる単元や指導事項等について、改善につながる授業を実践するためのシートの作成を行い、いつ、どのようにして実施するのかを明確にする。

課題となる問題

正答の状況

調査結果(小問)

定着率(本校)	
定着率(県)	
無答率	

指導改善のポイント

- 時間を x として方程式をつくるだけでなく、道のりを x として方程式をつくるなど、1つの問題を解決した後、異なる視点から解決を図る場面を設定し指導する。
- 学習内容(速さ・道のり・時間)の学び直しの機会を設け、既習内容の復習

改善のための授業案

学年	1年1組、1年2組	実施時期
単元名等		1次方程式

授業展開

- ①小学校での学習内容の復習
- ②問題の提示・学習課題の設定
- ③問題解決
 - 時間を x として、表を作成し、数量関係
- ④視点を変えて解決
 - 道のりを x として、表を作成し、数量関係

課題改善のポイント

特定課題改善シート

課題改善に向けた共通実践

課題の改善に向け、全教科・全授業で共通実践する内容を話し合い、実践に向けた具体的な手立てを検討する。さらに、授業研究会では、これらの視点で協議を深め、取組の検証を行う。

津奈木中 話し方・聞き方の約束

<話し方>

- ◇発表は丁寧語で！
 - 「・・・です。」「・・・と思います。」
- ◇結論をはっきりさせて、理由や根拠をつける！
 - 「・・・と思います。理由は・・・だからです。」
 - 「・・・と思います。・・・を見て・・・と判断したからです。」
 - など
- ◇他の人の意見に関連づけて！
 - 「〇〇さんと同じで・・・」
 - 「〇〇さんの意見に似ていて・・・」
 - 「〇〇さんの意見に付け加えて・・・」
 - 「〇〇さんとは違いますが・・・」
 - 「〇〇さんと同じ意見・・・」

共通実践項目

- ・調査結果の分析に終わらず、共通実践事項まで明確にしています。次に、確実に実践できるような手立てを個々の職員及び職員全体で検討し、日常化を図っています。これらを繰り返すことで、全職員での共通実践を推進し、課題改善・克服を目指しています。

ポイント 町全体での統一した学力向上の取組

美里町学力向上プラン

学校教育

- 1 教育課程の管理・運営
- 2 授業改善と学力向上
- 3 個に応じた指導
- 4 基本的な生活態度の定着
- 5 継続的な取組
- 6 信頼される学校・学級づくり
- 7 家庭学習の指導
- 8 読書活動の推進

家庭教育

- 1 規則的な生活習慣の定着
- 2 保護者の協力・支援

教育審議員による授業指導訪問（年間約130回）

- ・美里町言語活動一覧表の活用
- ・「教えること」と「考えさせること」を明確にしたメリハリのある熊本型授業の推進
- ・導入の工夫と学習の振り返りの充実
- ・言語活動と関連させた精度の高い評価基準の設定

教育委員会による教科指導訪問の実施
年1校，町内の管理職等が教科指導員
校内研修への支援訪問

小中連携授業改善研修会の充実

- ・中学校区ごとの公開授業と授業研究会（6月，11月）

全国学力・学習状況調査，県学力調査の分析考察と支援指導
学力の検証改善サイクルに沿った取組の推進指導

- ・美里町学校教育取組の方向や学力向上アクションプラン等により，教師の指導力向上，児童生徒の学力向上に努めています。学力向上は，基本的な生活習慣や学習規律の定着を基盤とし，家庭との連携や幼保等，小中連携を実践研究事業（県指定）等を充実させ，「オール美里」で取組を進めています。